

工事の げんば 現場より

旧矢筈原家住宅 保存修理事業

今はこんな様子だよ。

5月3週目

修理現場から
文化力
POWER OF CULTURE



今回の屋根葺替工事にあたり、旧矢筈原家住宅の旧所在地である白川郷荘川村の施工方法を踏襲することを重視し、現地の職人さんに指導を仰ぎました。白川郷ならではの素材の使い方などもご教示いただきつつ、今回解体した古い屋根（平成8年施工）は、荘川村の仕様で厳密に行いすぎたために、かえって早く傷んでしまった可能性も確認できました。降雪量が多い荘川村では、屋根にかかる雪の重みの影響を踏まえた施工方法となっていますが、雪の少ない横浜では逆に弱点になってしまったと推定されています。今回はその反省を踏まえ、「横浜仕様の白川郷荘川村の葺き方」を目指していきます。

特殊仕様 ①内側に並べられたヨシ？

屋根の一番内側に敷き詰め並べられているヨシ（と推定される材）を使う手法については、現地の職人さんでも不明の物でした。「カヤス」と呼ばれる、屋根下地として葺くものに類似していると指摘がありましたが、通常のカヤスは水平方向に並べられます。垂直方向にぎっくりと並べてあるだけのこの手法は、今では継承されていない、独特の古い技法なのかもしれません。



屋根の内側に並べられた状態

屋根の最も内側において、桁より室内側では、垂木と垂木の間にヨシと推定される材がぎっくり並べられ、藁縄で合掌材に軽く縛り付けて止められている。この上に茅を重ねていくので、下地の役割を担うと考えられる。

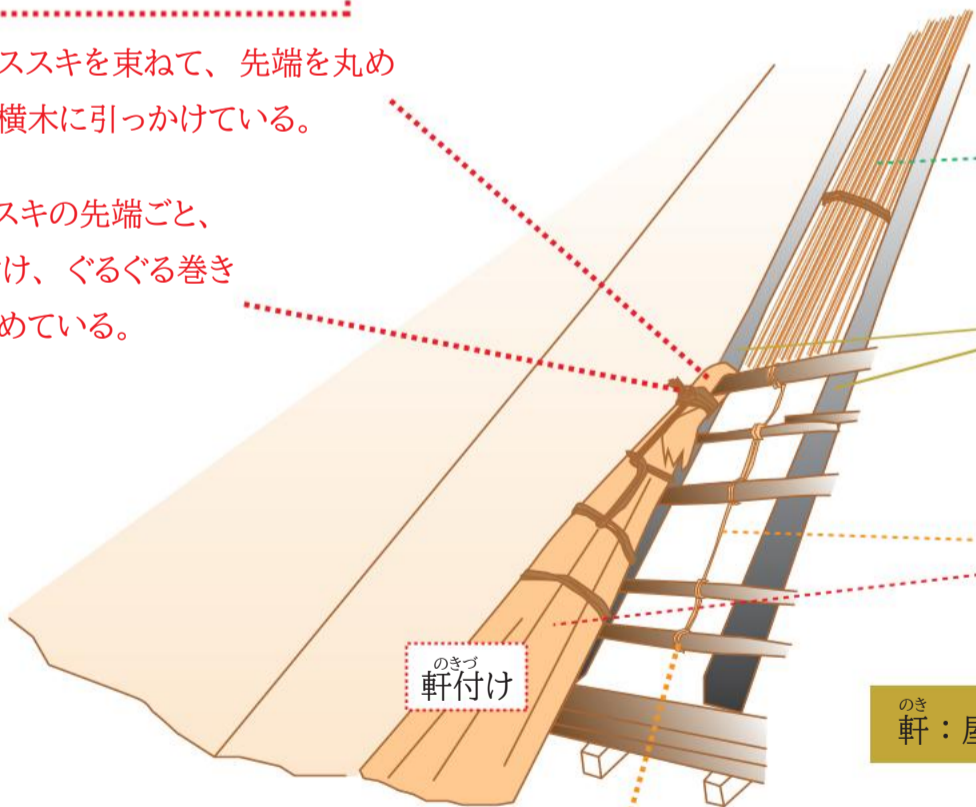


過去のお知らせはこちら

特殊仕様 ②吊り下げ型軒付け

ススキを束ねて、先端を丸め横木に引っかけている。

折り曲げたススキの先端ごと、藁縄で縫い付け、ぐるぐる巻きつけ束ねて止めている。



軒付け

のき 軒：屋根の下端

たるき 垂木

合掌材：屋根の棟木を支える斜材

棟：屋根の頂部

むなぎ 棟木

がっしょうざい

けた 桁

特殊仕様 ③小屋組み横材ズレ止め吊縄：「舫い縄」

特徴的な「軒付け」や「舫い縄」は現在でも荘川地方で受け継がれており、その技法を白川郷の職人さんに指導してもらいました。今回の解体で確認された軒付けは荘川地方の流儀に則っているものの、平成8年度の施工後すぐに雨漏りが生じ、平成12年に応急処置を行った記録が残されていました。降雪地帯であれば、この上に重ねる茅が雪の重みを受けてしっかり締められにくくなるはずが、雪の重みの影響が無い横浜では茅が締まらず抜けやすかったことなどが原因と推定されています。今回は軒付け茅を短くすることで茅束の傾きを緩やかにし、抜けにくくなるよう目論んでいます。横浜で長持ちする屋根となるよう工夫です。